

# camera view

●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。

●「広報つばめ」だけでは物足りないあなたへお送りする「Web版カメラびゅう」  
[https://www.city.tsubame.niigata.jp/keikaku/koho/2\\_1/index.html](https://www.city.tsubame.niigata.jp/keikaku/koho/2_1/index.html)



長年の交通安全への尽力に  
 「交通栄誉章緑十字金章」  
 2月7日 燕警察署

燕市交通安全協会会長の小柳孝礼さんへ、交通安全の功労者に贈られる最高の栄誉「交通栄誉章緑十字金章」、妻の薫さんへも感謝状が贈られました。おめでとうございます。



体重は背脂ラーメン5杯分  
 「燕太くんをよろしくね」  
 2月15日 宮町商店街

燕市商店連合会の公認キャラクター「燕太くん」が誕生。ぜひ燕太くんに会いに商店街に遊びに来てね！  
 燕市商店連合会のホームページはこちら▶



マンホールカード  
 第3弾を配布開始！  
 1月15日 長善館史料館

下水道に親しみを感じてもらうために配布しているマンホールカード。第3弾のデザインは市の花をモチーフにした「バーベナちゃん」が描かれています。



技と創造性が光る  
 「水燕鋳工会」作品展  
 2月4日 産業史料館

金工作家集団「水燕鋳工会」の作品展が今年も開催。今回のテーマは「和み」。鋳起銅器や彫金作品67点が並びます。金属による癒しの表現を堪能してみませんか。

## 今月のつばめっ子

元気なつばめの子もたちの様子をお届けします！



おもてなしカトラリーでいただきます！  
 ●1月27・28日 市内小中学校（吉田小学校）

東京オリンピック・パラリンピック選手村食堂で活躍した「おもてなしカトラリー」のスプーンが学校給食へお目見え。世界中のオリンピックをもてなした燕の製品で、子どもたちも楽しく給食をいただきました。



## なるほど！長善館

長善館史料館 ☎0256・93・5400

1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。

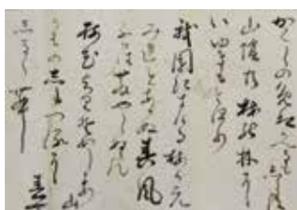


◀乙子神社草庵

良寛と鈴木文臺の交流は、解良家の勉強会で「論語」などの講師を務めた文臺の才能を良寛が絶賛したことから始まりました。乙子神社草庵での良寛は万葉集や古事記などの研究に集中しており、文臺は学問に向きあう姿勢や頻発する信濃川の洪水で苦しむ農民たちに寄り添う姿に深く影響されたに違いありません。  
 文臺は1833年に「困った人を救うために学ぶ」を学是に長善館を開きました。良寛が亡くなった2年後の事でした。

## よもやま話

分水良寛史料館  
 ☎0256・97・2428  
 (月曜日休館)  
 ■入館料  
 大人300円  
 学生200円  
 小中学生100円  
 ※団体割引あり



▲一首が記されている鶴齋の書

実は「花盗人」の逸話は良寛にもあり、燕市笈ケ島の平原治郎兵衛は何とかして良寛の書を得たいと思っていたところ、初夏のある日、たまたま通りかかった良寛が菅の花を折り取ったので、治郎兵衛はこの時と思い、「憎なのに人のものをとるとはけしからん」と言って、良寛に賛を書かせたという。電話照会時にたまたま史料館に居た分水良寛会員の協力を得て照会に時間をかけずに答えることができた。

※絵に添える詩文



信濃川大河津資料館の玄関前に建つひとときわ大きい石碑が信濃川治水紀功碑です。弥彦産の台座の上に、宮城県石巻産の碑石が建てられ、その高さ7.2mにもなります。100年前の大河津分水通水を記念し、大河津分水竣工式が行われた大正13(1924)年3月に建立された石碑で、大河津分水ができるまでの多くの請願者の尽力、横田切れをはじめとする水害の惨状、東洋一と言われた大河津分水工事の苦勞など、大河津分水通水に至るまでの道のりが1000を超える文字で刻まれています。また、碑文の中には「碑を津口の要処に建て、以てその功を紀し、後人をして其の由来する所を知らしむ」と刻まれており、大河津分水の偉業とその実現に尽力した人々の功績を後世に伝えたいという願いが込められています。

## 大河津分水コラム 次の100年に向けて 信濃川治水紀功碑

## 地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.48



昨年11月に開催した「初めての冬に備える講習会」の中で行った座談会タイムが好評だったこともあり、移住者の皆さんを対象とした交流会を行っています。慣れない新潟での冬の過ごし方や方言、暮らしのちょっとした困りごとなど、移住者ならではの共通の話題が出ました！

「県外から来た者同士で知り合いになれた」「みんなで燕市のイベントに参加してみたい」「もっと燕市のことを知りたい」などの感想をいただき、楽しんでくれたようです。

移住コーディネーターとして、移住者の皆さんにもっと燕市での暮らしを楽しんでもらえるよう、これからも頑張りたいと思います！

写真は昨年12月の座談会の様子です。移住者同士で会話を盛り上げました。



燕市地域おこし協力隊  
 森 瑞希 (右から2番目)